

ジュゴンの餌場を埋め立て。海上の飛行ルート守られる保障なし 美ら海・生活破壊の新基地建設はやめよ

日本共産党の赤嶺政賢議員は2月20日の衆院予算委員会で、沖縄県名護市辺野古での米軍新基地建設が自然環境と住民生活に重大な悪影響を与えることを告発し、新基地建設の断念と普天間基地（宜野湾市）の無条件撤去を迫りました。質問の要旨を紹介します。

辺野古沿岸部はジュゴンの餌場・生息域。埋め立て申請書評価は間違い

辺野古・大浦湾は、国の天然記念物で絶滅の恐れの高いジュゴンの餌場があるにもかかわらず、政府の埋め立て申請書ではジュゴンが辺野古沿岸域に移動し採食する「可能性は小さい」として工事を推進しようとしています。

赤嶺議員は、沖縄防衛局が2012年4～6月にかけて辺野古地先でジュゴンが海草を食べた跡を12ヶ所確認していたことを指摘。「埋め立て申請書の評価は間違いだ」と追及しました。

●赤嶺議員（政府の）資料には12ヶ所、（ジュゴンの）食跡の印が付いている。辺野古にやってくる可能性は小さいと言いつつ、実際には辺野古にきています。埋め立て申請書の評価が間違っていたのは明らかだ。

○小野寺防衛相 ジュゴンが回遊する場所があるが、主たる生息域は（辺野古の）キャンプ・シュワブ沖ではない。

海砂採取はジュゴンの餌場破壊も。環境アセス省くなど許されない

赤嶺議員は、ジュゴンの食跡が多く確認された名護市嘉陽沖には新基地建設のための海砂を採取する計画があるにもかかわらず、海草藻場に与える影響評価すら行われていないことを指摘しました。

●赤嶺議員 ジュゴンが海草を一番食べている地域は嘉陽の海岸。そのそばで海砂を採取すれば、海草藻場が破壊されてしまう。（環境アセスの中で）海砂採取の影響が調査されていない。

○小野寺防衛相 話の根本は、普天間の危険性除去をいかに早く進めるか。環境に配慮しながらすすめる。

●赤嶺議員 普天間を辺野古に移したいからアセスの手続きは省きました、十分にやっています、こんな言い訳は法治国家で通用しない。

環境協定は航空機騒音を対象とせず 基地の環境汚染は米側の責任で原状回復すべき

赤嶺議員は、米軍機運用の騒音問題を追及。沖縄県の環境生活部が昨年11月に埋め立て申請の可否を検討する過程でまとめた文書に、嘉手納・普天間両基地の騒音防止協定が守られていないことをあげて、「米政府と環境特別協定を締結する」ことを求めていることを指摘。政府の認識をただしました。

当然。今回の環境補足協定では、米側に回復義務を課すのか。

○岸田外務大臣 地元からの意見・要望は承知している。

●赤嶺議員 環境補足協定は、航空機騒音の問題を協議の対象としているのか。

●赤嶺議員 問題の根本に手を触れず、環境措置のためとして、思いやり予算などから日本政府が財政負担を担うとしている。何を負担するのか。

○岸田外相 騒音は対象には上がっていない。

○岸田外相 これから議論する。

●赤嶺議員 海側を飛ばすから騒音が起こらないなど、米軍基地を知らない人の話だ。

●赤嶺議員 財政負担に合意して、何を負担するかはこれからなどという説明は通用しない。



また、赤嶺議員は、今回の協定が環境汚染の原状回復義務が日本側にあることを再確認し、そのための新たな財政負担の枠組みに言及している問題を取り上げました。

●赤嶺議員 環境汚染を引き起こした当事者が責任をとるのは

米国参加なしの会議で5年以内の運用停止？

赤嶺議員は、普天間基地の5年以内の運用停止問題で政府と知事、宜野湾市長でつくられた負担軽減推進会議の中に米国の代表が入っていないことを指摘。「米国を入れないで、政府と沖縄県で話し合ったものがまともな、実現されたことは例がない。辺野古新基地建設はやめて、普天間基地は即時閉鎖、撤去すべきだ」と強く求めました。